

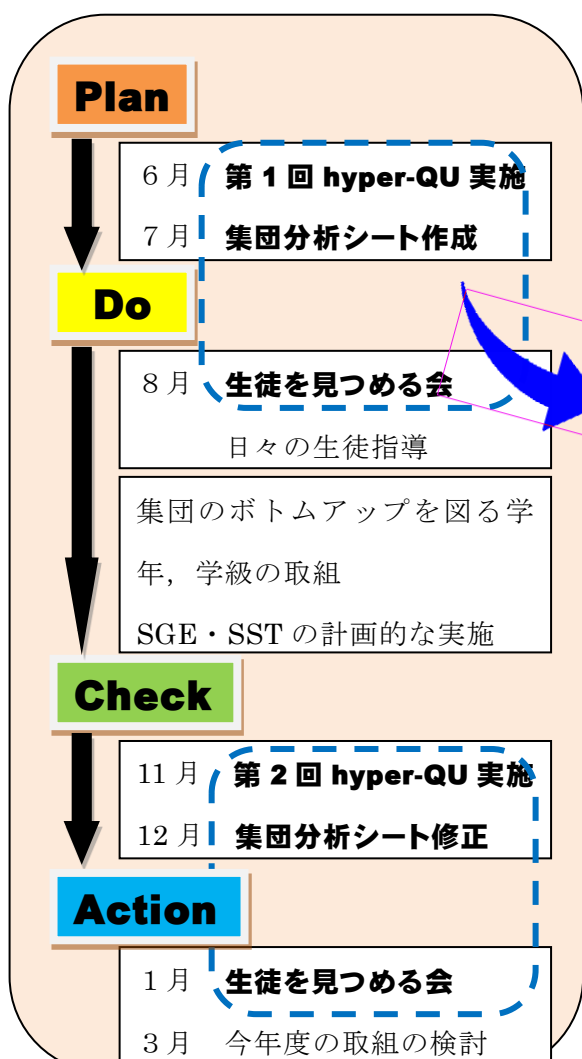
2 Q-U活用部会の取組

Q-U活用部会では、hyper-Q Uを活用し、学級・学年を温かい人間関係や信頼関係が形成された、互いに学び合い高め合う集団へ変容させることを目標に取組を行った。以下に、取組の方法とその効果について示す。

(1) P D C Aサイクルの視点を意識したQ-U活用スケジュール

Q-U (QUESTIONNAIRE-UTILITIES) とは、質問紙を用いて生徒の心理的な側面を調査し、学級集団の状態や生徒一人一人の生活や学習意欲・満足感を測定することで生徒理解を深めるためのものである。この質問紙のより良い利用方法を検討し、計画的な活用を図ることで学級・学年を変容させることが本部会の目的である。

現在、本校では、学級満足尺度と学校生活意欲尺度から構成されるQ-Uにソーシャルスキル尺度が加わった hyper-Q Uを年間2回実施している。今年度は、この hyper-Q Uをより効果的に活用するために、P D C Aサイクル (図3) の視点を意識した活用方法の構築を図った。



甲佐中学校 校内研修 Q-U活用部会		
Q-U活用による学級集団分析シート		記入日 29年 8月 日
学級 2年 組 合計 名		記録者氏名
1 学級集団の特徴		
長所	明るい雰囲気があり、言われたことを素直に聞こうとする姿勢が見られる。	
課題	けじめがなかったり、感情を上手く表現できずにトラブルになったりすることがある。	
2 学級担任として学級経営方針		
挨拶、返事、思いやりを大切に、何事にも一致団結して取り組む学級		
3 学級の公的なリーダー(代議員など)出席番号と簡単な説明		
出席番号	生徒の状態	Q-Uの結果
	代議員。何事にも真面目に取り組む、周囲の生徒への配慮もできる。	満足 非認証 侵害行為認知 不満足
	代議員。正義感はあるが、思い通りにいかないと感じる。	満足 非認証 侵害行為認知 不満足
	生徒会役員。クラスのムードメーカー。	満足 非認証 侵害行為認知 不満足
4 学級の中で影響力の大きい生徒(インフォーマルなリーダー)出席番号と簡単な説明		
出席番号	生徒の状態	Q-Uの結果
	明るい性格で、周囲から親しまれている。体育大会ではクラスをよくリードした。	満足 非認証 侵害行為認知 不満足
		満足 非認証 侵害行為認知 不満足
		満足 非認証 侵害行為認知 不満足
5 行動や心理面で気になる生徒 出席番号と簡単な説明		
出席番号	生徒の状態	Q-Uの結果
	正義感が強く、曲がったことが許せない。周囲から浮きがち。	満足 非認証 侵害行為認知 不満足
	他人と上手くコミュニケーションを図ることができず、一人でいることが多い。	要支援
	話しかけられると笑顔を見せるが、自分から話すことはほとんどない。	満足 非認証 侵害行為認知 不満足
	はっきりものを言う。人を傷つけることを言ったりするが、自分がされることには敏感である。	満足 非認証 侵害行為認知 不満足
		満足 非認証 侵害行為認知 不満足
6 プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる生徒 出席番号と簡単な説明		
出席番号	予想位置	実際の位置
	満足	侵害行為認知
		学習面、生活面とも真面目に取り組んでいるが、周囲の目を気にしていたり、周囲から認められていると感じていないようである。

図3 hyper-Q U活用のP D C Aサイクル

hyper-Q Uを実施するにあたり、以下の2点を目的としている。

1 点目は、生徒理解のためである。個々の教師による生徒の見立てには違いがある。職歴や経験値、子どもの成長において重視する観点が異なれば、生徒の捉え方にも違いがあつて当然である。さらに、教師の主観的な見立てでは捉えきれない一面もあるため、客観的に学級集団と生徒個々を理解する必要がある。そのため hyper-Q Uを活用し、データも加味し生徒を捉えることにした。6月に第1回目を実施し、校内研修において「結果」の考察を行い、学級集団分析シート（以下、分析シート）を作成した。

2 点目は、職員間の指導連携を促進するためである。hyper-Q Uの結果をもとに、8月と1月に生徒を見つめる会を実施している。生徒を見つめる会では、分析シートをもとに学級・学年集団や個々の生徒の共通理解を図る。分析シートの中で支援が必要な生徒については、共通理解をもとに日常の言葉かけや行事などにおける教師のアプローチを変えることで、生徒の不安や不満の解消を図っていった。また、構成的グループエンカウンター（S G E）やソーシャルスキルトレーニング（S S T）の活動を行い、対人関係能力や生活意欲等の向上（学級満足尺度の改善）を図った。

1 1月に、2回目の hyper-Q Uを実施し、結果を分析シートにまとめ、6月の結果と比較した。その結果をもとに、3学期のアプローチを検討し、実行すると共に次年度へ繋げていくようにした。このように、P D C Aサイクルをまわすことで、より hyper-Q Uの活用を図っている。

(2) 学級集団分析シートの作成と活用

hyper-Q Uの活用で最も力を入れたのは、分析シートの分析である。

3 学級の公的なリーダー(代議員など)出席番号と簡単な説明			
出席番号	生徒の状態		Q-Uの結果
	代議員。何事にも真面目に取り組み、周囲の生徒への配慮もできる。		満足 非認証 侵害行為認知 不満足
	いかないと感情的になる。		満足 非認証 侵害行為認知 不満足
			満足 非認証 侵害行為認知 不満足
4 インフォーマルなリーダー出席番号と簡単な説明			
出席番号	生徒の状態		Q-Uの結果
	。体育大会ではクラスをよくリードした。		満足 非認証 侵害行為認知 不満足
			満足 非認証 侵害行為認知 不満足
			満足 非認証 侵害行為認知 不満足
5 行動や心理面で気になる生徒 出席番号と簡単な説明			
出席番号	生徒の状態		Q-Uの結果
	正義感が強く、曲がったことが許せない。周囲から浮きがち。		
	他人と上手にコミュニケーションを図ることができず、一人であることが多い。		
	話しかけられると笑顔を見せるが、自分から話すことはほとんどない。		
	はっきりとものを言う。人を傷つけることを言ったりしたりするが、自分がされることには敏感である。		
			満足 非認証 侵害行為認知 不満足
6 プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる生徒 出席番号と簡単な説明			
出席番号	予想位置	実際の位置	説明
	満足	侵害行為認知	学習面、生活面とも真面目に取り組んでいるが、周囲の目を気にしていたり、周囲から認められていると感じていないようである。

行動や心理面で気になる生徒の項目。結果のまとめで“要支援”に入る生徒や侵害行為認知群にいる生徒などをピックアップする部分。

Q-Uテストの「結果のまとめ」において、教師の日常観察から疑問が生じる生徒をピックアップする部分。

図4 学級集団分析シート

分析シートの分析にあたり、特に以下の3点に着目し、活用を図った。

- ①リーダー性を持った生徒
- ②行動や心理面で気になる生徒
- ③プロットの位置が教師の日常観察から疑問に感じる生徒

①について、SGEを通してリーダーに受容的態度や共感性をはぐくむ取組を行った。
 ②についてはSSTで訓練を行うことで改善を試みた。③については学級の状態や教師のアプローチの方向性を知る上で重要になる部分と位置づけている。

2回目のhyper-QUの結果を、1回目の分析シートと比較する形で2回目の分析シートに整理した。分析シートの変化を確認しながら、それまでの取組の反省と3学期の取組の方向性を定めていった。

甲佐中学校 校内研修 Q-U活用部会		甲佐中学校 校内研修 Q-U活用部会	
Q-U活用による学級集団分析シート		Q-U活用による学級集団分析シート	
学級 2年 組 合計 名	1 回目	学級 2年 組 合計 名	2 回目
1 学級集団の特徴		1 学級集団の特徴	
長所	明るい雰囲気があり、言われたことを素直に聞こうとする姿勢が見られる。	長所	明るい雰囲気があり、言われたことを素直に聞こうとする姿勢が見られる。
課題	はじめがなかつたり、感情を上手く表現できずにトラブルになったりすることがある。	課題	はじめがなかつたり、感情を上手く表現できずにトラブルになったりすることがある。
2 学級担任として学級経営方針		2 学級担任として学級経営方針	
挨拶、返事、思いやりを大切に、何事にも一致団結して取り組む学級		挨拶、返事、思いやりを大切に、何事にも一致団結して取り組む学級	
3 学級の公的なリーダー(代議員など)出席番号と簡単な説明		3 学級の公的なリーダー(代議員など)出席番号と簡単な説明	
出席番号	生徒の状態	出席番号	生徒の状態
	代議員。何事にも真面目に取り組み、周囲の生徒への配慮もできる。		代議員。何事にも真面目に取り組み、周囲の生徒への配慮もできる。
	代議員。正義感はあるが、思い通りにいかないと感じる。		代議員。正義感はあるが、思い通りにいかないと感じる。
	生徒会役員。クラスのムードメーカー。		生徒会役員。クラスのムードメーカー。
4 学級の中で影響力の大きい生徒(インフォーマルリーダー)出席番号と簡単な説明		4 学級の中で影響力の大きい生徒(インフォーマルリーダー)出席番号と簡単な説明	
出席番号	生徒の状態	出席番号	生徒の状態
	明るい性格で、周囲から親しまれている。体育大会ではクラスをよーリードした。		明るい性格で、周囲から親しまれている。
5 行動や心理面で気になる生徒 出席番号と簡単な説明		5 行動や心理面で気になる生徒 出席番号と簡単な説明	
出席番号	生徒の状態	出席番号	生徒の状態
	正義感が強く、曲がったことが許せない。周囲から浮きがち。		正義感が強く、曲がったことが許せない。周囲から浮きがち。携帯電話のトラブル有り。
	他人と上手くコミュニケーションを図ることができず、一人でいることが多い。		などなく、自分から周りに話したり働きかけたりすることがあまりない。周囲から、からかうような言葉を浴びることがある。
	話しかけられると笑顔を見せるが、自分から話すことはほとんどない。		他人と上手くコミュニケーションを図ることができず、一人でいることが多い。
	はっきりものを言う。人を困らせることを言ったりしたりするが、自分がされることには敏感である。		人間関係を構築するのが苦手で、自分に非がある場合でも認めない(自分のどこに非があるのか理解できない)。
			はっきりものを言う。人を困らせることを言ったりしたりするが、自分がされることには敏感である。
6 プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる生徒 出席番号と簡単な説明		6 プロットの位置が教師の日常観察からは疑問に感じる生徒 出席番号と簡単な説明	
出席番号	予想位置	出席番号	予想位置
	実際の位置		実際の位置
	説明		説明
	満足		満足
	侵害行為認知		侵害行為認知
	学習面、生活面とも真面目に取り組んでいるが、周囲の目を気にしてたり、周囲から認められていると感じていない様子である。		
7 学級内で小グループを形成する子ども 小グループ何の生徒の出席番号と簡単な説明		7 学級内で小グループを形成する子ども 小グループ何の生徒の出席番号と簡単な説明	
予想される小グループ	説明	予想される小グループ	説明
28、33、34	グループ内で除口を言ったりする。	28、33、34	グループ内で除口を言ったりする。
8 4群にプロットされた子どもに共通する特徴		8 4群にプロットされた子どもに共通する特徴	
満足群	明るく活発である。	満足群	明るく活発である。
非承認群	真面目だが内向的である。	非承認群	真面目だが内向的である。
侵害行為認知群	周囲の目を気に	侵害行為認知群	周囲の目を気に
不満足群	自分を上手く表	不満足群	自分を上手く表

Q-Uの結果から、改善が見られなかった生徒に関して、その理由が明確にわかる。また、次の手立てにもつながる。

改善が見られた場合や新たな気になる生徒がいる場合、変更や加筆をしていく。

図5 学級集団分析シートの比較

(3) SGE及びSSTの計画的な取組

個々の生徒への手立てを講じると同時に、学級や学年の雰囲気を高める手立ても講じてきた。学校全体としては、ルールの確立のためにSSTを、リレーシヨンの確立のためにSGEを計画的に実施できるように、年間計画の作成や資料の準備を行い、生徒間の人間関係づくりを図った。年間計画(表2)の着実な履行に向けて、「仲間づくり強化週間」を設定し、各学年のホワイトボードに学習プログラム名を記載し、取組を進めた。

表2 SGE及びSST年間計画一覧

	1学期				2学期				3学期		
	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	◎SGE 『あいさつ』で 名刺交換	ライフスキル 「すばらしい友 だち」	SGE 「気になる自画 像」	SGE 「学級MPV」	◎SGE 「ひと夏の経 験」	SGE 「いいところ探 し」	SGE 「20の私」で 探る「私は誰 か」	SST 「ブラインドデ ート」	SGE 「みんなであつ ころよりよいク ラス」		SGE 「学級MPV」
		SGE 「Xさんからの 手紙」		SST 「上手な断り 方」			SGE 「自分探し」	SGE 「学級MPV」	◎SGE 「6つの未来 像」		◎SST 「私は私が好き です。なぜなら ば…」
				SST 「友だちにタバ コを誘われたら 」 「薬物の誘惑 から身を守る 方」			ライフスキル 「自己イメージ って何？」				
2年	◎SGE 「PR大作戦」	SGE 「気になる自画 像」	SST 「電話のかけ 方」	◎SST 「上手な断り 方」	ライフスキル 「ボランティア 活動一学校で」		SGE 「みんなであつ ころよりよい学 校」	◎SGE 「私たちの得た 宝物」 「学級MPV」	SGE 「ベタベタびた り！わたしの特 徴」		◎SST 「私は私が好き です。なぜなら ば…」
	ライフスキル 「意思決定スキ ルの復習」										
	SGE 「やります宣 言」 「Xさんからの 手紙」										
3年	ライフスキル 「自分を向上さ せるための目 標」		◎SGE 「内観」	SGE 「一年後の友 へ」	SGE 「私のものさ し」 「自分探し ～エゴグラム ～」	SGE 「意外なあなた を発見」	◎SGE 「思いやりのあ る学級とは」	◎SST 「模擬面接」	◎SGE 「25歳の私か らの手紙」	SGE 「別れの花束」	
	SGE 「やります宣 言」 「Xさんからの 手紙」		SGE 「気になる自画 像」	SST 「上手な断り 方」				SGE 「学級MPV」			

「仲間づくり強化週間」の一例として、2年生で実施したSGE「私たちの得た宝物」を紹介する。この活動では、2年生の修学旅行に対する取組を役割遂行の観点から評価し、各生徒が自己の存在価値を確認することを目的とする。活動は、各自の名前と「あなたがいたおかげで・・・」と書いたワークシートを準備し、班毎に「あなたがいたおかげで・・・」に続く一文を書いて隣に回していくというものである。

この活動を通して、ワークシート（図7）には普段目立たない生徒やhyper-QUで配慮が必要な生徒にも、教師の気づかない部分で頑張っていた事柄が書かれており、生徒同士のリレーションの確立に寄与したものとうかがえる。

hyper-QUとリンクしたこれらの活動を通して、少しずつ集団に変容が見られ、生活意欲が向上してきた。

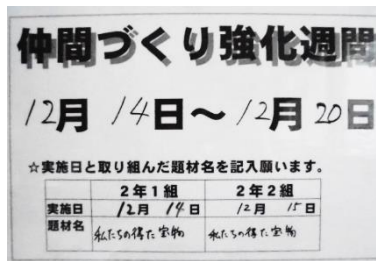


図6 仲間づくり強化週間

SGEの様子

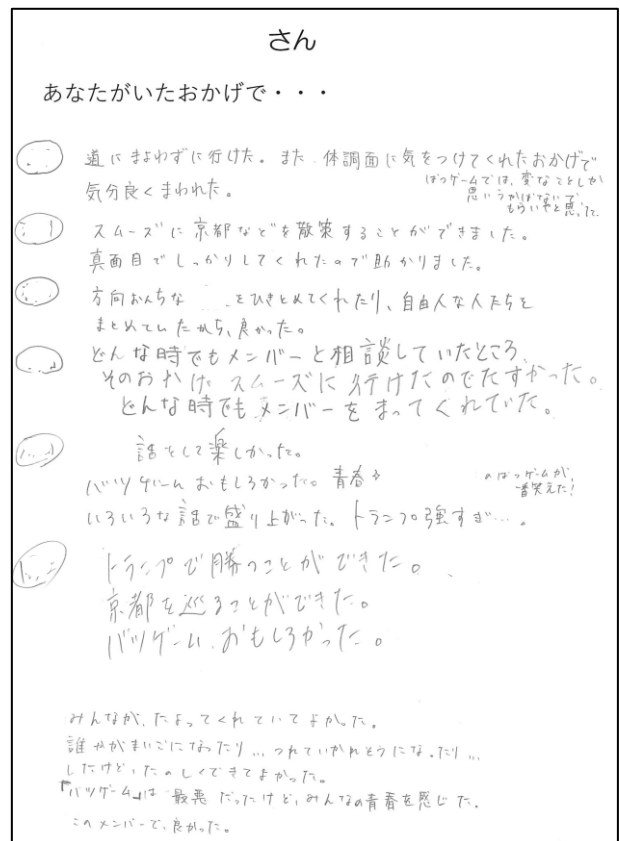


図7 生徒のワークシート